

令和3年度

施策評価表(令和2年度の実績評価)

記入年月日

令和 3 年 6 月 14 日

施策No.	政策名	子どもから高齢者まで健康で共生のまちづくり	主管課	社会福祉課	主管課長名	田谷 賢一
1-4	施策名	地域福祉の推進	関係課	児童福祉課、健康推進課、高齢福祉課、介護保険課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度		
	市民	①桜川市人口	見込値	人		41,278	41,008	40,738	40,467	40,197	
実績値						41,278	40,483	39,692	38,905		
見込値											
						実績値					
見込値											
						実績値					
施策の意図		成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度		
										①地域福祉活動を行っている市民の割合	%
地域で互いに支えあう意識が高まり、積極的に福祉活動に参加している。		②高齢者見守りネットワーク事業所登録件数	件			100	110	120	130	140	
						実績値	86	86	85	97	
			③社会福祉協議会にボランティア登録をしている人の数	人			759	759	759	759	759
							実績値	576	658	646	572
	目標値										
						実績値					
	目標値										
					実績値						
	目標値										
					実績値						
	成果指標設定の考え方	○地域で支え合いの意識を高め、福祉活動を実践することによって、アンケートによる①地域福祉活動を行っている市民の割合、②高齢者見守りネットワーク事業所登録件数③社会福祉協議会にボランティア登録している人数									
	成果指標の把握方法と算定式等	○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○①地域福祉活動を行っている市民の割合は、市民アンケート「継続的に行う」、「たまに行っている」より求める。②高齢者見守りネットワーク事業所登録件数は、高齢福祉課で管理する高齢者見守りネットワーク事業所登録数より求める。③社会福祉協議会にボランティア登録をしている人の数は、社会福祉協議会にボランティア保険に加入するために登録をしている人の数より求める。									

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)			
実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	○地域福祉活動を行っている市民の割合(「継続して行っている」「たまに行っている」)は、前年度25.3%であり、令和2年度については20.63%と減少している。「あまり行っていない」「行ったことはない」と回答した市民の割合は、令和元年度は71.4%、令和2年度は77.5%と増加している。 ○高齢者見守りネットワーク事業所登録件数は、令和元年度85件、令和2年度97件と増加している。 ○社会福祉協議会にボランティア登録をしている人の数は、令和元年度は646人、令和2年度は572人と減少している。 ○社会福祉協議会ボランティア登録数は減少傾向にあり、地域活動を行っている市民の割合は減少しているが、人数は前年度より増加傾向である。高齢者見守りネットワーク事業は増加傾向にあるので横ばいと判断した。		
2) 成果目標の達成状況			
実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った	
背景・要因	○地域福祉活動を行っている市民の割合は、令和2年度は目標値29.5%に対して実績値20.6%と下回った。 ○高齢者見守りネットワーク事業所登録件数は、令和2年度は目標値130件に対して実績値97件と下回った。 ○社会福祉協議会にボランティア登録をしている人の数は、令和2年度は目標値759人に対して実績値572人と下回った。 ○活動・ボランティアなどを行っている方の高齢化により目標値をすべて下回ったと考えられる。		

3. 施策の成果実績に対する総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対する総括	今後の課題・方針
<p>施策の目指す姿の実現に向けた取り組みの中で、以下の事業が大きく貢献したと考える。</p> <p>民生委員児童委員協議会助成事業においては、地域社会の福祉増進を目的とした活動の中で、高齢者に関すること、障がい者に関すること、子どもに関すること生活困窮者等に関することなどの相談及び支援を行った。岩瀬地区44名・大和地区16名・真壁地区40名計100名による訪問活動、見守り活動をしている。</p> <p>高齢者福祉計画においては、第8期高齢者福祉計画を策定し、計画に基づき様々な事業を実施している。</p>	<p>民生委員児童委員協議会においては、令和元年度の一改選後、半数の地区が新たな民生委員児童委員として委嘱を受けましたが、昨年からは新型コロナウイルスの影響もあり、事業や研修などが中止・延期等になっているため、個人の民生委員児童委員としてのスキルアップができない状況にあります。今後はワクチン接種などの状況を見ながら、感染予防を徹底し、県の研修や市民児協の全体研修などを開催することを検討しています。</p> <p>また、令和4年度に一斉改選があるため、地域によっては後継者対策が課題となっている状況の中、地域の実情に応じた人選をしていただけるよう早めに地区への推薦依頼をしていく。</p>